貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC48）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年12月21日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*		
					At	Df	Da	D属の他種
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L
標津	12/19	0	5.5	32.42	0	0	60	0
（11.0）		5	5.5	32.42	0	0	20	0
		10	5.5	32.43	0	10	0	0
		15	5.5	32.43	0	0	30	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪ

コメント

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC47）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年12月14日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L
厚岸	12/11	0	4.6	32.66	0	0	0	0
(5.0)		5	6.1	33.14	0	0	0	0
		10	6.2	33.17	0	0	20	0
		13	6.2	33.17	0	0	10	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC46）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年12月6日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*		
					At	Df	Da	D属の他種
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L
サロマ湖	12/3	0	5.4	32.48	0	10	0	0
（8.0）		3	5.4	32.50	0	0	0	0
		6	5.4	32.50	0	0	20	0
		9	5.4	32.51	0	0	10	0
		12	5.3	32.52	0	0	20	0
		15	5.4	32.60	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

12月上旬のサロマ湖海域で

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨとｱｷｭﾐﾅｰﾀがわずかに出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC45）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年11月29日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
標津	11/28	0			0	0	20	0	
		5			0	0	10	10	Dru
		10			0	0	30	0	
		15			0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC44）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年11月20日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
浜益	11/13	0	14.0	32.71	0	0	0	10	Dru
（11.0）		10	14.8	33.30	0	0	10	10	Dru
		20	15.1	33.51	0	0	30	0	
		30	15.5	33.73	0	0	0	0	
能取湖	11/16	0	10.7	33.48	0	50	70	0	
（5.5）		10	10.7	33.48	0	20	60	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

11月の石狩湾（浜益）と能取湖海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ、ｱｷｭﾐﾅｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC43）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年11月12日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差	11/2	0	17.1	33.83	0	0	0	0	
（12.0）		10	17.1	33.86	0	0	0	0	
		20	17.1	33.86	0	0	0	0	
		30	17.1	33.87	0	0	0	0	
猿払	11/6	0	15.1	33.60	0	0	0	0	
－		10	15.2	33.76	0	0	0	0	
		15	15.2	33.76	0	0	0	0	
		20	15.2	33.76	0	0	0	0	
常呂	11/6	0	14.7	33.99	0	0	0	0	
（14.0）		10	14.6	34.01	0	0	0	0	
		20	14.3	33.97	0	0	0	0	
		30	14.3	33.97	0	0	0	0	
サロマ湖	11/6	0	12.4	33.39	0	0	0	0	
（6.0）		3	12.4	33.47	0	0	0	0	
		6	12.4	33.47	0	0	0	0	
		9	12.4	33.47	0	0	10	10	Di
		12	12.4	33.48	0	0	0	0	
		15	12.5	33.52	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

11月上旬の日本海南部（江差）、宗谷北部（猿払）、網走中部（常呂）海域およびサロマ湖海域で
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはサロマ湖でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗがわずかに出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC42）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年11月8日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
標津	10/31	0			0	0	10	0	
		5			0	0	10	0	
		10			0	10	0	0	
		15			0	0	0	0	
厚岸	11/5	0	11.4	32.34	0	0	200	90	Di90
(4.5)		5	11.8	32.77	0	0	240	70	Di60, Dm10
		10	11.8	33.26	0	0	20	10	Di10
		13	11.7	33.28	0	0	50	30	Di30

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ・ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、厚岸でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗが多く出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC41）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年10月30日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
能取湖	10/26	0	14.2	33.43	0	150	130	60	Di50、Dm10
（3.0）		10	14.2	33.48	0	40	50	20	Dm20

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，　Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，　Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

10月下旬の能取湖海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ、ｱｷｭﾐﾅｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC40）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年10月26日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
常呂	10/23	0	16.2	33.98	0	0	0	0	
（11.0）		10	16.1	34.00	0	0	0	0	
		20	15.6	34.03	0	0	0	10	Dru
		30	15.2	34.01	0	0	0	0	
サロマ湖	10/23	0	14.8	33.26	0	0	50	10	Di
（4.0）		3	14.6	33.26	0	10	30	10	Di
		6	14.6	33.27	0	0	60	30	Di
		9	14.6	33.27	0	0	50	40	Di
		12	14.6	33.27	0	0	10	20	Di
		15	14.6	33.27	0	0	10	10	Di

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

10月下旬の網走中部（常呂）海域とサロマ湖海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはサロマ湖でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗが主に出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC39）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年10月19日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*		
					At	Df	Da	D属の他種
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L
浜益	10/12	0	17.7	31.15	0	0	10	0
（5.0）		10	18.6	33.53	0	0	0	0
		20	18.7	33.61	0	0	0	0
		30	18.9	33.72	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，　Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，　Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

10月の石狩湾（浜益）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC38）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年10月16日

中央水産試験場資源管理部

地　点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差	10/10	0	20.4	33.76	0	0	0	10	Dm
(20.0)		10	20.5	33.81	0	0	0	0	
		20	20.5	33.80	0	0	0	0	
		30	20.4	33.82	0	0	0	10	Dm
猿払	10/9	0	17.2	33.73	0	0	0	0	
(-)		10	17.2	33.73	0	0	0	0	
		15	17.2	33.71	0	0	0	0	
		20	17.2	33.69	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

10月上旬の日本海南部（江差）および宗谷北部（猿払）海域では
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、江差でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗがわずかに出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC37）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年10月12日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
厚岸	10/5	0	15.4	31.57	0	0	80	0	
（3.0）		5	14.9	32.52	0	0	60	10	Dru10
		10	14.5	33.03	0	10	30	0	
		13	14.5	33.05	0	0	10	10	Di10

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

10月の太平洋東部海峡（厚岸）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀがやや多く出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC36）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年9月28日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
浜益	9/20	0	20.5	33.33	0	0	0	0	
（10.5）		10	20.5	33.42	0	0	0	0	
		20	20.8	33.86	0	0	10	10	Dro
		30	20.7	33.86	0	0	0	10	Dro
標津	9/26	0			0	20	40	130	Dru100, Dm30
		5			0	10	50	70	Dru60, Dm10
		10			0	30	10	30	Dru20, Di10
		15			0	10	20	20	Dru10, Di10
常呂	9/25	0	18.9	33.90	0	0	0	10	Dm10
（10.0）		10	18.9	33.90	0	0	0	10	Dm10
		20	18.7	33.92	0	0	0	10	Dm10
		30	18.3	33.93	0	0	0	10	Dru10
サロマ湖	9/25	0	18.2	33.41	0	10	20	10	Dro10
（7.5）		3	18.1	33.42	Aa20	10	10	10	Di10
		6	18.2	33.42	20	10	10	0	
		9	18.2	33.43	20	10	10	0	
		12	17.8	33.41	0	30	20	10	Dro10
		15	16.8	33.39	0	0	10	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

9月下旬のサロマ湖海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは標津でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾙｼﾞｪｲがやや多く出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC35）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年9月20日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
猿払	9/11	0	19.6	33.33	0	0	0	0	
－		10	19.3	33.34	0	0	0	0	
		15	18.6	33.47	0	0	0	10	Dm
		20	18.4	33.47	0	0	0	0	
増毛	9/13	0	21.2	34.00	0	0	0	0	
（22.0）		10	21.2	34.00	0	0	0	0	
		20	21.0	33.98	0	0	0	0	
		30	20.7	33.90	0	0	0	0	
江差	9/13	0	22.1	33.75	0	0	0	0	
（17.0）		10	22.1	33.73	0	0	0	0	
		20	22.1	33.86	0	0	0	0	
		30	21.7	33.96	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは標津でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗがわずかに出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC34）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年9月12日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
能取湖	9/10	0	18.9	33.05	0	20	30	80	Dru70, Di10
（4.0）		10	16.9	33.44	0	100	20	130	Dru10, Di120
厚岸	9/10	0	17.2	30.55	0	10	590	130	Di130
（2.0）		5	15.2	32.54	0	0	430	50	Di50
		10	12.6	32.85	20	10	370	30	Di30
		12	12.2	32.93	0	10	80	10	Di10

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

9月の太平洋東部海峡（厚岸）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは能取湖でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨとｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗが、
厚岸でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗが多く出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC33）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年9月10日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
標津	8/31	0	16.6	32.40	0	30	70	20	Di20
（7.0）		5	16.5	32.61	0	10	80	30	Di10, Dro20
		10	16.1	32.81	0	10	10	0	
		15	15.5	33.06	10	20	10	10	Dru10
網走	8/31	0	17.0	33.60	0	0	0	20	Dru10, Dm10
（10.0）		10	16.4	33.66	10	0	0	30	Dro20, Dm10
		20	14.1	33.80	0	0	0	0	
		30	14.1	33.78	0	0	0	10	Dro10

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

8月下旬の根室海峡（標津）海域と網走南部（網走）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは標津でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨとｱｷｭﾐﾅｰﾀがやや多く出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC32）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年8月30日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
紋別	8/20	0	18.2	33.38	0	0	0	40	Dro
（7.0）		15	17.5	33.77	0	0	0	10	Dro
		25	17.4	33.78	0	0	10	10	Dro
		38.1	17.3	33.64	0	10	0	10	Dro
江差	8/20	0	21.3	34.16	0	0	0	0	
（22.0）		10	21.0	34.15	0	0	0	0	
		20	20.0	34.06	0	0	0	0	
		30	19.0	34.12	0	0	0	0	
浜益	8/22	0	21.2	29.58	0	0	10	60	Dro50, Dm10
（4.0）		10	20.9	32.30	0	0	0	30	Dro10, Dm20
		20	20.3	33.25	0	0	0	20	Dro20
		30	15.7	33.99	0	0	0	30	Dro30
厚岸	8/27	0	15.2	32.09	0	270	700	20	Dru10, Di10
（3.0）		5	14.0	32.45	0	290	1010	100	Dn50, Dru10, Di40
		10	13.2	32.68	10	10	180	30	Di30
		12	13.0	32.74	0	0	70	10	Di10
頓別	8/24	0	17.6	33.73	0	10	0	20	Dro10, Dm10
－		10	17.4	33.77	0	0	0	0	
		20	17.1	33.78	0	0	0	0	
		30	17.0	33.78	0	0	0	0	
常呂	8/28	0	17.1	33.18	0	0	0	10	Dm10
（6.0）		10	17.1	33.80	0	10	0	40	Dro20, Dru20
		20	16.7	33.83	0	0	0	20	Dro20
		30	16.6	33.84	0	0	0	0	
サロマ湖	8/28	0	18.0	32.16	0	0	10	10	Dro10
（4.0）		3	17.9	32.27	0	0	10	20	Dro10, Dru10
		6	17.9	32.42	0	10	0	10	Dru10
		9	17.4	32.81	0	0	0	20	Di20
		12	17.5	33.02	0	10	0	0	
		15	16.9	33.01	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

8月下旬の太平洋東部（厚岸）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは厚岸でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨとｱｷｭﾐﾅｰﾀが多く出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC31）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年8月24日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
能取湖	8/21	0	20.8	31.93	0	10	10	10	Dro
（3.6）		10	17.2	33.06	10	40	10	70	Dro60, Di10

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

8月下旬の能取湖海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ、ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC30）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年8月15日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
増毛	8/9	0	21.7	33.65	0	0	0	20	Dro
（13.0）		10	18.1	33.92	0	0	0	0	
		20	16.4	33.82	0	0	0	10	Dro
		30	13.8	34.01	0	0	0	10	Dro
猿払	8/7	0	18.4	33.29	0	0	0	0	
（-）		10	16.8	33.46	0	0	0	0	
		15	16.8	33.45	0	0	0	0	
		20	16.7	33.45	0	10	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

8月上旬の日本海北部（増毛）および宗谷北部（猿払）海域では
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC29）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年8月7日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		（m）	（℃）	（psu）	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
厚岸	8/6	0	15.6	31.61	20	50	980	10	Dro
（4.0）		5	14.5	31.61	60	350	1,010	30	Dn
		10	11.6	32.29	10	240	420	70	Dn
		13	10.2	32.28	0	20	350	30	Dn

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

8月上旬の太平洋東部（厚岸）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨとｱｷｭﾐﾅｰﾀが主に出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC28）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年8月1日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
浜益	7/24	0	19.4	32.15	0	0	0	0	
(5.5)		10	17.2	33.45	0	0	0	10	Dro
		20	15.9	33.71	0	0	0	0	
		30	15.8	33.71	0	0	0	0	
猿払	7/24	0	14.7	33.48	0	0	0	0	
ー		10	14.7	33.50	0	30	0	0	
		15	14.7	33.50	0	50	0	10	Dro
		20	14.6	33.52	0	40	0	0	
標津	7/30	0	－	－	10	10	0	10	Dru
ー		5	－	－	0	0	20	0	
		10	－	－	10	10	0	10	Dru
		15	－	－	10	20	30	0	
能取湖	7/30	0	21.5	32.53	0	20	20	0	
ー		10	14.9	33.09	30	480	110	0	
江差	7/25	0	21.3	33.47	0	0	0	0	
(10.0)		10	20.4	33.58	0	0	0	0	
		20	18.5	33.87	0	0	0	10	Dru
		30	15.0	34.26	0	0	0	0	
増毛	7/26	0	20.5	31.85	0	0	0	0	
(7.0)		10	16.0	33.74	0	0	0	0	
		20	14.9	33.91	0	10	0	0	
		30	14.1	33.99	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

7月下旬の根室海峡（標津）海域と能取湖海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは能取湖でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ、ｱｷｭﾐﾅｰﾀが多く出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC27）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月26日

中央水産試験場資源管理部

地　点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
常呂	7/24	0	14.6	33.64	20	10	0	0	
(12.0)		10	14.3	33.70	0	0	0	0	
		20	14.2	33.69	0	20	0	10	Dro
		30	14.0	33.73	0	20	0	0	
サロマ湖	7/24	0	18.5	30.96	0	0	0	0	
(2.5)		3	16.7	31.85	0	0	10	0	
		6	14.3	32.56	10	60	10	10	Dn
		9	13.1	32.95	0	60	10	0	
		12	12.5	32.99	0	0	10	0	
		15	11.4	33.12	0	20	0	0	
厚岸	7/24	0	15.0	30.08	970	0	110	0	
(4.5)		5	10.8	31.98	190	50	1910	30	Dn10, Dru10, Di10
		10	9.5	32.03	20	190	1900	120	Dn
		13	9.0	32.30	30	30	710	30	Dn

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ， Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ， Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

7月下旬の太平洋東部（厚岸）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが970細胞/L出現しました。
毒性値の推移にご注意下さい。
網走中部（常呂）およびサロマ湖海域でもわずかに出現しています。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ、ｱｷｭﾐﾅｰﾀおよびﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶが主に出現しています。
特に厚岸ではｱｷｭﾐﾅｰﾀが非常に多く出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC26）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月20日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
紋別	7/18	0	11.5	33.95	30	10	10	0	
（8.0）		10	10.8	33.93	0	80	40	0	
		20	10.6	33.97	0	70	30	0	
		30	10.6	33.96	0	30	0	0	
能取湖	7/18	0	16.5	31.57	20	50	160	20	Di
（5.0）		10	12.7	32.88	0	110	40	40	Di30, Dn10

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，　Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，　Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

7月中旬の網走北部（紋別）海域と能取湖海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは主にﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨとｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC25）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月20日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
頓別	7/11	0	11.5	33.95	20	0	10	0
(-)		10	10.8	33.93	10	0	0	0
		20	10.6	33.97	0	0	0	0
		30	10.6	33.96	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

7月中旬の宗谷南部（頓別）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが最高20細胞/L出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC24）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月18日

中央水産試験場資源管理部

地　点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L
網走	7/17	0	11.7	32.61	50	0	0	0
(10.0)		10	11.1	33.54	50	20	0	0
		20	9.9	33.75	0	50	0	0
		30	9.8	33.76	10	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

7月の網走南部（網走）海域で

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しています。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨが出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC23）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月13日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
厚岸	7/10	0	12.7	28.17	0	0	40	0	
(4.0)		5	10.1	31.57	0	0	2460	290	Dn
		10	8.8	32.12	0	0	590	20	Dn
		12	8.6	32.16	0	0	150	0	
増毛	7/9	0	17.7	28.01	0	0	0	10	Dro
(4.0)		10	14.4	33.94	0	0	0	0	
		20	13.9	33.98	0	130	0	0	
		30	12.3	33.83	0	70	10	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

7月の太平洋東部（厚岸）海域で

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは厚岸でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶが増毛でﾌｫﾙﾃｨが多く出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC22）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月13日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*			
					At	Df	Da	D属の他種	
（透明度m）		(m)	(℃)	(psu)	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
厚岸	7/10	0	12.7	28.17	0	0	40	0	
(4.0)		5	10.1	31.57	0	0	2460	290	Dn
		10	8.8	32.12	0	0	590	20	Dn
		12	8.6	32.16	0	0	150	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

7月の太平洋東部（厚岸）海域で

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは厚岸でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀが非常に多くﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶが多く出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC21）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月9日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
増毛	6/29	0	14.9	33.23	0	0	0	10	Dro
(14.0)		10	13.7	33.69	0	20	20	0	
		20	12.3	33.86	0	80	40	0	
		30	11.4	33.94	0	50	0	10	Di
猿払	7/3	0	12.8	32.88	0	60	0	0	
－		10	12.7	33.56	0	50	0	0	
		15	12.7	33.57	0	40	0	10	Di
		20	12.5	33.63	0	30	10	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

6月下旬の日本海北部（増毛）海域と7月上旬の宗谷北部（猿払）海域で
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨとｱｷｭﾐﾅｰﾀが主に出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC20）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年7月4日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L
猿払	6/26	0	12.4	33.59	0	0	0	0
－		10	11.9	33.67	0	0	0	0
		15	11.7	33.71	0	0	0	0
		20	11.7	33.72	0	10	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

6月下旬の宗谷北部（猿払）海域で

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨがわずかに出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC19）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年6月29日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
標津	6/26	－	－	－	0	0	110	0	
ー		－	－	－	0	0	50	0	
		－	－	－	0	0	50	10	Dn10
		－	－	－	0	0	100	10	Dn10
常呂	6/26	0	10.5	32.89	90	0	10	10	Dru10
（7.0）		10	10.1	33.05	60	0	10	20	Dn10, Dru10
		20	9.4	33.70	20	0	30	20	Dn10, Dru10
		30	9.3	33.72	0	0	20	0	
サロマ湖	6/26	0	14.4	32.43	0	0	20	0	
（5.8）		3	13.8	32.46	0	10	10	0	
		6	13.1	32.57	10	10	50	10	Di
		9	12.8	32.61	0	10	10	0	
		12	11.6	32.90	0	0	10	0	
		15	10.0	33.26	0	0	20	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ・ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

6月下旬の網走中部（常呂）海域とサロマ湖海域で
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtが出現しました。
網走中部（常呂）海域では麻痺性貝毒の毒性値の推移にご注意下さい。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀが多く出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC18）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年6月26日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
紋別	6/18	0	10.6	33.22	0	0	10	0	
(5.5)		15	9.0	33.38	0	0	50	0	
		25	7.9	33.76	0	0	0	10	Dru
		37.9	7.0	33.70	0	0	0	0	
江差	6/18	0	15.3	33.96	0	0	0	0	
(18.0)		10	13.6	34.15	0	0	0	0	
		20	12.6	34.18	0	0	0	0	
		30	11.8	34.13	0	0	0	0	
増毛	6/18	0	13.3	33.69	0	0	0	0	
(15.0)		10	11.8	33.67	0	10	0	0	
		20	9.9	34.05	0	20	0	0	
		30	9.3	33.99	0	70	0	0	
能取湖	6/25	0	14.6	32.68	0	50	50	0	
(4.2)		10	11.9	33.06	0	20	40	10	Di
網走	6/25	0	8.6	33.04	0	0	20	20	Dru
(7.0)		10	8.5	33.20	0	10	20	10	Dru
		20	9.5	33.53	0	0	0	0	
		30	8.9	33.67	0	0	0	0	
厚岸	6/25	0	11.1	31.04	0	20	470	70	Dn
(7.0)		5	7.4	32.46	0	0	140	100	Dn
		10	6.0	32.60	0	0	30	30	Dn
		13	5.4	32.68	0	0	10	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ・ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ,　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ,　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

6月の網走北部（紋別）、日本海南部（江差）、日本海北部（増毛）、能取湖、網走南部（網走）および太平洋東部（厚岸）海域で麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは厚岸でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶが多く出現しております。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC17）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年6月22日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L
頓別	6/11	0	11.6	33.80	0	0	0	0
－		10	11.1	33.83	0	0	0	0
		20	10.7	33.92	0	0	0	0
		30	10.6	33.94	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

6月の宗谷南部海域（頓別）で

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現しておりません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝも出現しておりません。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC16）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年6月15日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
猿払	6/5	0	11.5	33.46	0	0	0	0	
－		10	11.4	33.50	0	0	0	0	
		15	11.1	33.63	0	10	0	0	
		20	11.1	33.65	0	10	0	0	
浜益	6/8	0	15.7	31.89	0	0	10	0	
（7.0）		10	12.2	33.86	0	20	0	10	Di
		20	10.7	33.89	0	40	30	0	
		30	10.2	33.89	0	0	10	0	
能取湖	6/13	0	12.6	32.64	0	0	0	0	
（3.7）		10	12.3	32.75	0	10	10	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ・ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ，　Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，　Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

6月の宗谷北部（猿払）、石狩湾（浜益）および能取湖海域で、
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtがわずかに出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは主にﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨやｱｷｭﾐﾅｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC15）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年6月7日

中央水産試験場資源管理部

地　点	月日	深度	水温	塩分	麻痺性原因種	下痢性原因種*		
					At	Df	Da	D属の他種
（透明度m）		(m)	(℃)	(psu)	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L
網走	6/4	0	8.5	32.64	0	0	10	0
		10	8.0	33.60	0	0	0	0
		20	8.6	33.90	0	0	0	0
		30	8.5	33.91	0	0	0	0
増毛	5/30	0	14.4	31.89	0	0	0	0
－		10	11.6	33.14	0	10	0	0
		20	9.6	33.84	0	0	10	0
		30	8.6	33.96	0	0	0	0
厚岸	6/4	0	12.1	31.37	10	0	0	0
(4.0)		5	7.8	32.09	0	0	110	420
		10	5.8	32.35	0	0	0	50
		13	5.4	32.38	0	0	0	0
常呂	6/5	0	12.4	33.36	0	20	0	0
(9.0)		10	10.6	33.53	0	10	0	0
		20	10.2	33.62	0	0	0	0
		30	10.2	33.64	0	0	0	0
サロマ湖	6/5	0	15.3	32.95	0	0	0	0
(8.9)		3	14.1	32.33	0	0	0	0
		6	11.3	32.73	0	0	0	0
		9	11.2	33.03	0	10	0	0
		12	10.4	33.02	10	0	10	0
		15	9.7	33.08	0	0	10	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ・ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ，　Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，　Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

6月上旬の太平洋東部海域（厚岸）とサロマ湖海域で
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtがわずかに出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、主にﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC14）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年5月30日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
標津	5/25	0	－	－	10	0	20	0	
－		5	－	－	0	0	10	0	
		10	－	－	0	0	40	10	Dn
		15	－	－	0	0	40	0	
猿払	5/22	0	7.3	33.93	0	0	0	0	
－		10	7.3	33.95	0	0	10	0	
		15	7.3	33.96	0	0	0	0	
		20	7.3	33.96	0	0	0	0	
能取湖	5/28	0	12.9	－	0	0	0	0	
（7.8）		10	10.0	－	0	0	0	0	
江差	5/24	0	12.8	34.10	0	0	0	0	
（9.0）		10	11.8	34.23	0	0	0	0	
		20	10.6	34.37	0	10	0	0	
		30	9.8	34.43	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

5月の根室海峡（標津）海域で、

麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtがわずかに出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは主にﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC13）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年5月25日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
常呂	5/21	0	9.0	33.26	0	0	10	0	
(8.0)		10	8.1	33.30	0	0	0	0	
		20	8.0	33.48	0	0	10	0	
		30	7.7	33.53	0	0	10	0	
サロマ湖	5/21	0	10.1	31.82	0	0	10	0	
(9.0)		3	10.1	31.83	0	0	0	0	
		6	9.0	32.55	0	0	0	0	
		9	8.7	32.78	10	0	10	0	
		12	8.3	32.85	0	0	10	0	
		15	7.5	32.89	0	0	0	0	
厚岸	5/1	0	10.0	31.43	0	0	0	0	
(3.0)		5	6.7	31.88	0	0	0	20	Dn
		10	5.5	32.25	0	0	0	10	Dn
		13	5.1	32.33	10	0	10	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ・ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

5月下旬のサロマ湖と太平洋東部海域（厚岸）で
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtがわずかに出現しました。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀとﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC12）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年5月22日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
浜益	5/15	0	12.0	31.82	0	0	0	0
(9.5)		10	10.3	33.17	0	0	0	0
		20	8.2	33.95	0	0	0	0
		30	8.4	34.04	0	0	0	0
頓別	5/11	0	6.7	33.84	0	0	10	0
-		10	6.7	33.79	0	0	10	0
		20	6.7	33.85	0	0	20	0
		30	6.7	33.84	0	0	10	0
紋別	5/15	0	7.2	33.58	0	0	30	0
(6.5)		15	7.0	33.79	0	0	20	0
		25	7.0	33.81	0	0	20	0
		36.9	6.5	33.81	0	0	10	0
増毛	5/16	0	11.3	32.33	0	10	0	0
(11.0)		10	10.0	33.17	0	0	0	0
		20	9.5	33.67	0	0	0	0
		30	8.4	33.81	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

5月中の石狩湾、宗谷南部、網走北部および日本海北部海域では
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、主にﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC11）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年5月17日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
標津	5/11	0	－	－	0	0	30	0
－		5	－	－	0	0	10	0
		10	－	－	0	0	0	0
		15	－	－	0	0	0	0
能取湖	5/14	0	11.8	31.55	0	0	0	0
（7.0）		10	7.6	32.78	0	0	20	0
猿払	5/9	0	7.2	33.71	0	0	0	0
－		10	7.2	33.70	0	0	0	0
		15	6.9	33.80	0	0	20	0
		20	6.8	33.83	0	0	20	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

5月の根室海峡（標津）海域、能取湖海域および宗谷北部（猿払）海域で、
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝはﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC10）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年5月10日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
常呂	5/7	0	7.7	32.57	0	0	10	0
（4.0）		10	7.6	33.16	0	0	0	0
		20	7.1	33.45	0	0	10	0
		30	7.1	33.46	0	0	0	0
サロマ湖	5/7	0	8.0	30.71	0	0	10	0
（3.0）		3	8.1	30.89	0	0	0	0
		6	7.9	32.49	0	0	0	0
		9	7.6	32.72	0	0	10	0
		12	7.4	32.87	0	0	0	0
		15	7.2	33.07	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ・ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ・ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾌｫﾙﾃｨ，　Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，　Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ，　Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，　Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

5月上旬の網走中部（常呂）・サロマ湖

では、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ・ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC9）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年5月7日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
猿払	4/24	0	6.0	33.74	0	0	40	0
－		10	6.1	33.79	0	0	10	0
		15	6.1	33.79	0	0	30	0
		20	6.1	33.79	0	0	10	0
厚岸	5/1	0	7.8	30.98	0	0	0	0
(2.0)		5	6.0	31.75	0	0	0	0
		10	3.9	32.17	0	0	0	0
		12	3.3	32.21	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

5月の宗谷北部（猿払）および太平洋東部(厚岸)海域で、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは猿払でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC8）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年4月26日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L	
江差	4/18	0	7.9	32.41	0	0	10	0	
(7.0)		10	7.5	34.04	0	0	180	0	
		20	7.3	34.06	0	0	40	0	
		30	7.2	34.08	0	0	40	0	
浜益	4/16	0	7.2	30.49	0	0	20	0	
(8.0)		10	7.0	34.11	0	0	30	20	Di,Dro
		20	7.0	34.11	0	10	70	0	
		30	7.0	34.10	0	0	60	0	
増毛	4/18	0	7.1	33.35	0	0	20	0	
(10.0)		10	6.9	33.41	0	0	140	40	Di30,Dro10
		20	6.8	33.81	0	10	120	0	
		30	6.7	34.03	0	0	50	0	
紋別	4/17	0	5.1	32.99	0	0	50	0	
(3.0)		5	5.0	33.52	0	0	50	10	Di
		10	4.9	33.53	0	0	80	10	Di
		12	4.9	33.53	0	0	120	0	
常呂	4/23	0	6.4	31.73	0	0	0	0	
(3.0)		10	5.0	33.43	0	0	30	0	
		20	5.4	33.42	0	0	20	0	
		30	5.4	33.42	0	0	20	0	
サロマ湖	4/23	0	7.4	30.82	0	0	20	0	
(6.5)		3	7.3	30.87	0	0	50	0	
		6	5.0	31.85	0	0	10	0	
		9	4.7	32.38	0	0	0	0	
		12	5.2	32.44	0	0	0	0	
		15	3.7	32.46	0	0	0	0	
能取湖	4/25	0	7.8	31.90	0	0	20	0	
(6.8)		10	5.7	32.51	0	0	10	0	
網走	4/23	0	4.3	32.42	0	0	10	0	
(4.0)		10	4.0	33.41	0	0	40	0	
		20	5.1	33.69	0	0	50	0	
		30	5.1	33.71	0	0	70	0	
標津	4/20	0	－	－	0	0	0	0	
(－)		5	－	－	0	0	0	0	
		10	－	－	0	0	10	0	
		15	－	－	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

4月中～下旬の日本海南部・北部、石狩湾、網走北部・中部・南部、サロマ湖、能取湖および根室海峡海域では、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、主にﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC7）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年4月20日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L
厚岸	4/19	0	5.4	29.99	0	0	0	0
（2.5）		5	2.5	31.99	0	0	0	0
		10	2.1	32.15	0	0	0	0
		12	2.0	32.20	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

4月の太平洋東部(厚岸)海域で、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは
出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝも出現しておりません。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC6）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年4月18日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
厚岸	4/13	0	3.7	31.36	0	0	0	0
－		5	3.1	31.73	0	0	0	0
		10	2.2	32.14	0	0	10	0
		13	2.0	32.19	0	0	0	0
猿払	4/10	0	5.2	32.93	0	0	170	0
－		10	5.2	33.01	0	0	10	0
		15	5.2	33.03	0	0	60	0
		20	5.2	33.06	0	0	110	0
能取湖	4/10	0	4.2	31.57	0	0	10	0
(5.2)		10	3.7	32.23	0	0	20	0
頓別	4/13	0	5.4	33.08	0	0	120	0
－		10	5.4	33.14	0	0	140	0
		20	5.4	33.19	0	0	140	0
		30	5.4	33.40	0	0	90	0
常呂	4/17	0	5.4	33.08	0	0	0	0
(6.0)		10	5.4	33.14	0	0	50	0
		20	5.4	33.19	0	0	40	0
		30	5.4	33.40	0	10	20	0
サロマ湖	4/17	0	4.1	31.40	0	0	50	0
(6.5)		3	4.1	31.38	0	0	10	0
		6	4.3	31.60	0	0	10	0
		9	4.5	31.78	0	0	10	0
		12	4.1	32.03	0	0	10	0
		15	3.8	32.19	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ
Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）
Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ
Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ
Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント
麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは
出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC5）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年3月28日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
増毛	3/26	0	5.3	32.91	0	0	10	0
（12.0）		5	5.2	33.27	0	0	70	0
		10	5.2	33.56	0	0	90	0
		13	5.0	33.71	0	10	20	0
標津	3/22	0	－	－	0	0	0	0
－		5	－	－	0	0	0	0
		10	－	－	0	0	0	0
		15	－	－	0	0	0	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

3月の日本海北部(増毛)および根室海峡（標津）海域で、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、増毛でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀとﾌｫﾙﾃｨが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC4）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年3月7日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
厚岸	3/5	0	−0.3	31.83	0	0	0	0	
（2.0）		5	−0.2	31.94	0	0	30	20	Dn10, Di10
		10	−0.1	32.23	0	0	10	0	
		13	−0.1	32.36	0	0	0	0	

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

3月の太平洋東部(厚岸)海域で、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは
出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀなどが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC3）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年3月2日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
増毛	2/27	0	5.3	32.75	0	0	0	0
（13.0）		5	5.1	34.04	0	0	0	0
		10	5.1	34.05	0	0	0	0
		13	5.0	34.05	0	0	0	0
標津	2/26	0	－	－	0	0	0	0
－		5	－	－	0	0	0	0
		10	－	－	0	0	0	0
		15	－	－	0	0	20	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

2月の日本海北部(増毛)および根室海峡（標津）海域で、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、標津でﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC2）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年2月6日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
厚岸	2/1	0	−0.6	32.05	0	0	70	0
（2.0）		5	−0.5	32.12	0	0	10	0
		10	−0.5	32.33	0	0	20	0
		13	0.3	32.41	0	0	10	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ, Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

2月の太平洋東部(厚岸)海域で、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは
出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）

貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ速報（YC1）

（日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋）

2018年1月19日

中央水産試験場資源管理部

地　点 （透明度m）	月日	深度 （m）	水温 （℃）	塩分 （psu）	麻痺性原因種 At 細胞/L	下痢性原因種* Df 細胞/L	 Da 細胞/L	 D属の他種 細胞/L
厚岸	1/12	0	0.7	32.11	0	0	50	0
（3.0）		5	1.0	32.31	0	0	130	0
		10	1.3	32.47	0	0	30	0
		13	1.5	32.48	0	0	80	0
標津	1/17	0	1.7	32.14	0	0	20	0
（8.0）		5	1.7	32.15	0	0	80	0
		10	1.7	32.17	0	0	60	0
		15	1.7	32.18	0	0	60	0

*At = Alexandrium tamarenseｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ﾀﾏﾚﾝｾ =旧名 ﾌﾟﾛﾄｺﾞﾆｵﾗｯｸｽ･ﾀﾏﾚﾝｼｽ

Aa = Alexandrium affineｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｳﾑ･ｱﾌｨﾈ（無毒種）

Df=Dinophysis fortii ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾌｫﾙﾃｨ，Da=Dinophysis acuminata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀ

Dro=Dinophysis rotundata ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾛﾂﾝﾀﾞｰﾀ，Di=Dinophysis infundibula ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｲﾝﾌｧﾝﾃﾞｨﾌﾞﾗ

Dm=Dinophysis mitra ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾐﾄﾗ，Dn=Dinophysis norvegica ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ﾉﾙｳﾞｪｼﾞｶ，Dru=Dinophysis rudgei ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ ﾙｼﾞｪｲ

コメント

1月の太平洋東部(厚岸)および根室海峡（標津）海域で、麻痺性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝAtは出現していません。

下痢性貝毒ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝは、ﾃﾞｨﾉﾌｨｼｽ･ｱｷｭﾐﾅｰﾀが出現しています。

（担当：海洋環境グループ　品田晃良、嶋田　宏、佐藤政俊）